

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	さがのこうとうがっこう				②所在都道府県	京都府
26～30	①学校名	嵯峨野高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1年 330人	2年 336人
	京都こすもす科 人文社会・国際 文化系統	126	128	125		379	3年 334人
普通科	120	124	126		370		
⑥研究開発構想名	地域連携・海外コラボ型「京都グローバルスタディーズ」によるリーダー育成						
⑦研究開発の概要	グローバルリーダーの育成のために、地域・海外連携型京都グローバルスタディーズ（KGS）ⅠⅡⅢにおいて、大学や企業等と連携し、生徒の「課題発見・解決能力」「探究する力」「表現する力」「地球規模の視野で考える力」「英語・異文化コミュニケーション能力」「リーダーの資質」を育成することを目標とする。						
⑧研究開発の内容等	<p>(1) 目的・目標</p> <p>持続可能な社会の形成のため、政治・経済・文化・社会分野等において、課題発見・解決能力を育成し、政策提言をはじめとした未来デザイン力や行動力をもち、個人、日本人としてのアイデンティティを確立し、国際社会で尊敬される人格と高度な知識・洞察力を備えたグローバルリーダー育成のための「京都グローバルスタディーズⅠⅡⅢ」の教育課程等を研究開発することとした。</p> <p>1年次KGSⅠでは、探究の基礎と英語・異文化コミュニケーション能力の育成、2年次KGSⅡでは、現行のアカデミックラボ（1年次1単位から2年2単位に変更）の充実・発展を図り、地元の教育リソース（大学・企業等）を活用して探究する力を伸ばし、また、海外の高校生とのワークショップを充実させることで地球規模的に考える力をつけ、さらには、活動により「課題発見・解決能力」「表現する力」等を育成する。3年次KGSⅢでは本校が主催する予定の「京都グローバルフェスタ」での発表や質疑応答を英語で行うことで、課題研究をより深め、グローバルリーダーの資質を育成したいと考えている。</p> <p>また、海外帰国子女特別入試の導入について検討をし、異なる価値観を持つ生徒同士が互いに切磋琢磨する環境の整備を図っていきたいと考える。</p>						
	⑧-1全体	<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>新しいタイプの専門学科「京都こすもす科」を設置（平成8年度）し、平成14～16年度の3年間文部科学省からスーパーランゲージハイスクール（SELHi）の指定による先進的で高いレベルの英語教育、国際理解教育を進め、また、探究活動を行う「アカデミックラボ」の取組を実施してきた。しかし、SSHにより3年間継続して行う「スーパーサイエンスラボ」と比較して大学や研究所との連携や協同研究など、その深化という点で課題がある。加えて、国際理解教育の学校全体への拡がりも課題である。</p> <p>京都グローバルスタディーズⅠⅡⅢの、3年間で、段階的に、大学や企業等との連携のもと、課題学習やその成果物の発表を日本語や英語で行う機会を設定することで、課題研究の深化、英語で議論できるコミュニケーション力を育成することができると考える。また、生徒に各種の国際的な課題に関する大会やコンテストへの積極的参加を促すことにより、チャレンジする力を持ったたくましいグローバル人材を育成できると考える。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>成果発表と研究手法の普及については、KGSⅡ「アカデミックラボ」の成果発表会を公開し、また、3年次6月に本校主催で実施する「京都グローバルフェスタ」は、府内の高校、全国のSGH校や連携大学、海外のパートナー校の生徒・教員を対象に行う。また、同様に3年次10月実施予定の「嵯峨野高校SGHシンポジウム」では、府内の高校、全国のSGH校、連携大学や海外の高校の教職員を対象に実施し、指導方法や教材の公開や意見交換をし、普及に努めたいと考えている。</p>					

<p>⑧-2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 地域連携・海外コラボ型「京都グローバルスタディーズ (KGS) I II III」において、「環境」と「地域」をテーマに国際的視点を加えて課題研究を実施する。 「グローバルな環境問題」を国際社会の利害やエネルギーの視点等から、「地域環境の問題」を都市環境や防災及び景観や生態系等から研究する。また、「生活環境の問題」を法律や経済などの観点から、「文化環境」の問題を比較文化的視点等から研究する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 平成 26 年度は、京都グローバルスタディーズ I を実施し、「グローバルインタラクション」では外国人講師や外国人留学生の活用により英語での課題発表やディスカッションするための基礎づくりをする。 「社会と情報」では、課題研究のための基礎力を養い、課題について主体的に考え、発表する力をつける。その際、ICT 活用力を身につけ、クラス (10 月) や学年全体 (2 月) で課題発表を行い、教員・生徒・外国人講師・TA 等で評価を実施する。 海外のパートナー校とのコラボレーションとして行うミニ国際ワークショップ (本校・海外) では、課題研究の内容を英語で発表することにチャレンジをする。1 年次に課題発見・解決能力と英語・異文化コミュニケーション能力の基礎を身につけることで、2 年次の KGS II での課題学習にスムーズに取り組めるようにする。さらに、ハーバード大学の学生とのワークショップ等を行い、課題研究を深め、地球規模の視野を得る。 平成 28 年度の「課題錬成 A」「課題錬成 B」により英語でのポスターセッション・口頭発表に向けての準備を行い、6 月に本校が主催する「京都グローバルフェスタ」で発表をし、その質疑応答を通して、課題研究を深める。さらに、リーダーの育成のため、当日の運営についても生徒が主体的に行うよう促す。府立高校の教員、全国の SGH 校の教員、海外パートナー校・大学・企業の関係者から評価を受けることを予定している。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 「グローバルインタラクション」「課題錬成 A」「課題錬成 B」 「ロジカルサイエンス」「アカデミックラボ」</p>
<p>⑧-3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>(2) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の実組内容・実施方法 海外帰国子女特別入試の導入を検討し、海外生活を経験した多様な学習歴をもった生徒の入学を進めていく。 表千家による茶道の指導や、古典芸能鑑賞を通して、日本の伝統文化にふれ、体験する取組を通して、自らのアイデンティティ確立を目指す。</p> <p>(3) 幹事校としての取組 (該当する場合のみ記入)</p>
<p>⑨その他 特記事 項</p>	

ふりがな	きょうとふりつ さがのこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	京都府立嵯峨野高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	600人
	54人	64人	人	人	人	人	人	160人
目標設定の考え方: 生徒会、各クラスボランティア委員の活動を活性化させ、社会貢献の志を育み積極的に社会の課題を発見し解決しようとする態度を育み、自主的に地域社会や国際社会に貢献する活動に取り組みせ、該当生徒数を増やす。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60人
	22人	50人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 本校のパートナー校での海外研修応募を積極的に呼びかけ、応募者数を増やす。また、京都府グローバルチャレンジ事業(海外研修補助金制度(25万))の積極的な紹介等を通して、該当生徒の数を増やす。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	18.5%	21%	%	%	%	%	%	35%
目標設定の考え方: 課題研究(グローバルスタディーズ)の取組の充実を図るとともに、国連など国際機関での仕事の経験者との交流や国際的なボランティア活動により、該当生徒の数を増やす。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	30人
	3人	14人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 様々なコンテストやコンペを紹介し積極的な参加を促し、チャレンジ精神を高めさせる。また自己肯定感を持たせ該当生徒の数を増やす。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	-	54.0%	%	%	%	%	%	70%
目標設定の考え方: 本校英語教育の質の向上に絶えず努め、英語による課題研究の成果発表の機会の増加を図ることにより、GTEC(1・2年全員受検)520点以上取得者や英検2級以上(ただし、今年度卒業生の2年時の結果である)の該当生徒の数を増やす。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	-	21.1%	%	%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: 毎年継続的に行なう調査で、「国際社会で活躍できる英語力を身につけたい」と考える生徒数を増やす。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(31年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	33%	35%	%	%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: 課題研究(グローバルスタディーズ)の取組の充実や、グローバル30大学の教育内容を進路ガイダンスで積極的に紹介することを通して、該当する生徒数を増やす。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	1人	0人	人	人	人	人	人	1人
目標設定の考え方: 課題研究(グローバルスタディーズ)の取組の充実を図るとともに、海外のトップ大学の学生とのワークショップを通して、海外での学びの魅力を伝え、該当生徒の数を増やす。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	-	-	%	%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: 課題研究の取組の充実を図り、海外の大学の研究内容の紹介等を校内で行なうことを通して、該当生徒の数を増やす。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	200人
	-	-	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: 本校キャリアガイダンスに、国際的キャリア形成のための大学在学中留学・海外研修計画作成に関するガイダンスを盛り込むことにより、該当生徒の数を増やす。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	331人	341人	人	人	人	人	人	380人
目標設定の考え方:本校海外研修時のパートナー校で実施するワークショップテーマと課題研究テーマとの関連を図るとともに、海外研修参加者数枠を増やすことにより、該当生徒の数を増やす。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	200人	200人	人	人	人	人	人	600人
目標設定の考え方:課題研究テーマに関する校内での研究成果発表会の着実な実施と、関連コンペ等へ「アカデミックラボ」単位等で参加したり、校外での関連研修会を積極的に紹介し参加を促すことにより、該当生徒の数を増やす。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	4校	6校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方:これまでの本校パートナー校との連携を継続しつつ、パートナー校の新規開拓を行なうと同時に、パートナー校や関連諸機関(京都府国際課)等を通して新規連携大学の開拓を行なう。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	30回	50回	回	回	回	回	回	400回
課題研究に関する連携大学との関係強化や新規連携大学の開拓を図り、外部人材の参画回数を増やす。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	5人	10人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方:課題研究に関する連携企業との関係強化を図り、連携国際機関(UNESCO)等を新規開拓し、外部人材の参画を増やす。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	2人	10人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方:高校生模擬国連や全国英語ディベートコンテスト等への積極的に参加し、該当参加者数を増やす。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	3人	5人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方:帰国・外国人生徒の入学試験を導入すると同時に、留学生の受け入れ体制を整える。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	6回	回	回	回	回	回	12回
目標設定の考え方:「京都府グローバルコミュニケーション」との研究成果の交流会や、全府立高校を対象とした研究成果報告会や全国SGH校を対象とした研究成果発表会を実施することにより、研究成果発表会を増やす。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方:現在、英語版ウィキペディアにより学校記法情報は発信しているが、海外校との連携強化のために、英語ホームページを開設し、継続的に充実を図る。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j	170人	304人	人	人	人	人	人	600人
目標設定の考え方:課題研究(グローバルスタディーズ)でのワークショップの質の向上、及び国際交流の推進を目指し、京都府国際課や観光商業課との連携を強め、本校を訪れる外国人高校生数の増加を図る。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	1,037	1,001					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							